令和８年度　山口県立大学　看護栄養学部看護学科

一般選抜（後期日程）
「小論文」

試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

注意事項

1　解答は全て解答用紙に記入してください。

2　試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせてください。

3　不正行為について
① 不正行為については厳正に対処します。
② 不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は、監督者が注意します。
③ 不正行為を行った場合は、その時点で受験をとりやめさせ退室させます。

4　試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰ってください。

問題　以下の文章を読み、著者の主張を踏まえた上で、誰もが共に暮らせる共生社会を実現するためにはどのようなことが必要か、あなたの考えを述べなさい。その上で、共生社会の実現のためにあなた自身が取り組みたいことを具体的に述べなさい。解答用紙に 800 字以内で記入しなさい。

地域で暮らすということは、地域の一員として生活することです。生活とは、ただそこにある住居に住めばいいわけではなく、その地域での活動も含まれています。活動とは、働いたり、買い物したり、運動したり、飲食したりするなど、さまざまです。

しかし、残念なことに、高齢者や障害者、子どもなどの施設は、ときに“迷惑施設”とされ、地域住民の理解がなかなか得られず、開設が難航してしまうことがあります。たとえば、最近では東京都心の一等地で、児童相談所などの福祉施設を建設しようとしたところ、地域住民から「地域ブランドが崩れる」などの反対があり、開設に時間がかかることになりました。

こうした福祉関連施設、特に障害者の施設に対しては、偏見や誤解も多く、しばしば住民から開設への反対が起きることがあります。こうした状態は「施設コンフリクト」と呼ばれます。

以前、私が関西地方で新聞記者をしていたとき、このような問題について取材しました。市が市有地に知的・精神障害者のための施設をつくろうとしたところ、「障害者施設は文教地区にはそぐわない」「精神障害者が住民に危害を加える可能性がある」「障害者施設が近くにあると地価が下がる」――などと地域住民から反対の声が上がったのです。住民は、建設予定地の敷地の真横に見張り小屋を建て、市がボーリング調査に入るのを阻止するという膠着（こうちゃく）状態が続きました。市や施設を建設する社会福祉法人が住民への丹念な説明を続け、10 年ほど遅れて、強制着工に至りました。

そこで、デンマークにいたころ、私は精神障害者施設の施設長に「施設コンフリクト」について尋ねたことがあります。施設長は「ないわけではないが、そう大きな話は聞かない。街中で普通に精神障害者を見かける中で、障害者に慣れているのもあるのだろう」と答えていました。地域で障害者が普通に暮らせる共生社会がそこにはありました。

「施設コンフリクト」が起きる背景として、一番大きいのは偏見です。今でこそ、障害を持つ子も持たない子も一緒に学ぶ「インクルージョン教育」が進み、学校の中で多少なりとも一般住民が障害者と触れ合う機会があります。しかし、そうした環境になじめない何らかの障害を持つ子どもは孤立したり、いじめの対象になったりしがちで、不登校につながることがあります。インクルージョン教育が必ずしもうまくいかない所以（ゆえん）です。

その結果、障害者と関わった経験が少ない子どもは、成人しても、障害者に対して「異質」「怖い」などのネガティブな印象を持ち続けてしまう可能性があります。これは実態とは異なる偏見に過ぎませんが、障害者が身近に来ることへの恐怖心が施設コンフリクトを生んでしまうのです。

また、高齢者については、認知症の場合、「施設から飛び出したり、徘徊（はいかい）したりすれば危ない」という理由から施設建設に反対されるケースがしばしばあります。保育所や幼稚園について、「子どもの泣き声や騒ぎ声がうるさい」という反対意見が出ることもあります。

私が多くの精神障害者の施設と関わってきた中でも、「精神障害者が来ると怖い」「外出の際は必ず職員が同行してほしい」という声が聞かれました。そのたびに、「施設に来る精神障害者は、病院で治療を受けたり、医師が地域での生活が可能と判断されたりした人なので、危ないことはありません」と説明し、理解してもらっています。

日本はこれから、高齢化がますます進み、地域にさまざまな支援を必要とする人が増えてきます。また、うつなどの精神疾患への理解が社会や職場の中でも少しずつ進んでおり、精神障害者への対応は重要性を増していきます。さらに、少子化の中で子どもを生み育てる環境を整えるため、保育や児童施設の整備も不可欠です。

つまり、誰もが共に暮らせる共生社会の実現が求められているのです。その中で、「施設コンフリクト」が少しでも減り、皆がお互いを思いやり、支えあいながら生活できる社会を創造していきたいものです。

出典：銭本隆行「地域で暮らし続ける～日本とデンマークの現場から　“迷惑施設”とされる高齢者や障害者施設　トラブルの背景に何があるのか」2021年12月21日「毎日新聞医療プレミア」（一部改変）
https://mainichi.jp/premier/health/articles/20211210/med/00m/100/021000c
最終アクセス2025年11月20日.

令和８年度　山口県立大学　看護栄養学部看護学科
一般選抜　後期日程「小論文」　出題の意図

入学試験「小論文」出題の意図

この文章は、毎日新聞医療プレミア「地域で暮らし続ける～日本とデンマークの現場から“迷惑施設”とされる高齢者や障害者施設　トラブルの背景に何があるのか」の一部である。著者の主張について正確に読み取る理解力、読解力（AP《技能》と関連）を評価する。記事の内容を踏まえた上で、「誰もが共に暮らせる共生社会を実現するためにはどのようなことが必要か」及び「自身が実施したい具体的な取り組み」の２点について、論理的に自身の考えを表現する論理的思考力（AP《思考力・判断力》に関連）及び制限字数内で文章を記述する文章構成力を含む表現力（AP《表現力》に関連）を評価する。